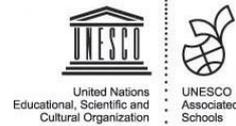


テーマ

山花の『恵み』



釧路市立山花小中学校

校長 小 関 としむ

担当者 下 村 伸 大

1. 本校ESDの特徴

本校は、釧路市の郊外に位置し、背後にある学校林では、ウグイスやカッコウなどをはじめとする野鳥のさえずりやセミの鳴き声が響くといった自然に囲まれた環境の中にあります。

隣接する山花公園には釧路市動物園があり、小学生は動物たちの獣舎の掃除やえさやりの準備など、動物園をフィールドとした学習に取り組み、命を育てることの大切さや命の尊さ、環境への配慮などを学んでいます。

また、校地内には 16a(40m四方)の農園を備え、子どもたちに「持続可能な社会の担い手」となるための資質・能力を培うための栽培学習に取り組んでいます。特に平成30年度からは、地域の方々や教師の理解と協力の下、「土作り→種まき→栽培作業→収穫(次年度のための種子の確保)→土作り」という「循環型」の栽培学習へシフトし、小麦や大豆という世界で大量に生産・消費される作物を扱うことを通して、地域からグローバルな視野につながる学習を行っています。

これらの本校の活動を「生命」「自然」「環境」などの言葉で束ね、『恵み』というキーワードで表現しています。

2. 活動・全体計画

(1)動物園学習(小学校)

- ◆目標 ①動物の飼育体験を通して、自然や環境、生命への関心を高め、愛する心情を育てる。
- ②協力して飼育体験を行うことを通じて、連帯感や思いやりの心を育てる。
- ③自ら課題を設定し、見通しをもって追究し、結果をまとめ、発表する能力を養う。
- ④地域の特性や特長に気づき、積極的に関わろうとする姿勢を養う。

◆計画

月日	活動内容	飼育動物	時数
4月25日	動物園見学		2
6月19日	飼育体験・振り返り	アルパカ・チンパンジー・シマウマ	3
10月23日	飼育体験・振り返り	ヒグマ・アライグマ・ペンギン	3
1月29日	飼育体験・学習のまとめ	オタリア・アシカ・ヒグマ・オラウータン	4

(2)栽培学習(小学校・中学校)

- ◆目標 ①栽培活動を通して、自然の摂理、生物の多様性、環境を学ぶ。
- ②協力して栽培活動を行うことを通じて、連帯感や思いやりの心を育てる。
- ③学習した内容について、わかりやすく「まとめ、発表する」力を養う。
- ④地域の特性や特長に気づき、積極的に関わろうとする姿勢を養う。
- ⑤既習事項や実体験をつないだ「知のネットワーク」を構築し、グローバルな視点を持って物事を思考・判断できる力を養う。

◆計画

	学年	学年テーマ	目 標	活 動
小 学 校	低	自分・保護者	野菜の栽培⇒収穫⇒味わう活動を通して、自然の力を実感し大切にすることを学ぶ。	野菜の蒔種から収穫まで観察や世話をし、その様子や感想をまとめて発表する。
	中	自分・家庭生活 保護者	野菜を栽培する学習を通して、自分たちの食生活について関心を持つ。	野菜の栽培と自分たちの食生活とのつながりを、「収穫⇒調理⇒味わう」という学習を通して考え、まとめて発表する。
	高	自分・仲間・家庭生活・地域社会 保護者・地域	エコロジーに立脚した栽培と、農業生産との違いに関心を持つ。	エコロジーに立脚した栽培活動を通して、農業生産としての栽培との違いについて考え、まとめて発表する。

中学校	全	自分・仲間 地域社会・ 世界情勢	栽培学習を通して、食料問題・環境問題を探ると共に、未来に向けてできることを考え情報を発信する。	栽培学習を通して生産性や環境問題などに課題意識を持ち、地域から世界的視野で未来に向けた改善策や自分たちでできることを考え、まとめて発表する。
-----	---	------------------------	---	--

3. 活動事例

(1)動物園学習(小学校)

小学校では隣接する釧路市動物園において、年3回の動物園学習を行います。学年ごとに担当する動物を決め、えさの仕込み、獣舎の清掃、給餌…と一連の作業を進めていきます。命の営みに触れ、かけがえない生命の尊さを学んでいます。猛獣以外は実際に動物に触れ、手から直接の給餌もさせていただきます。ペンギン、アルパカ、アザラシ、トナカイ、シロクマ、ライオン、ウサギ、キリン等々、6年間でほぼ全ての獣舎を経験します。



(2)栽培学習(小学校・中学校)

従来の栽培学習から脱却し、化学肥料や農薬が環境に与える影響を考え、土作りから収穫、種取り、堆肥作りを行う。このような身近な取組から、栽培する食物の世界的な収量や日本を取り巻く環境などグローバルな視点で考えるところまでを、小中併置校の利点を活かして9年間のスパンで取り扱い、総合的な思考力・判断力を培っていく。作物は、主に大豆と小麦など世界的に取り扱われるものを栽培し、地域と世界との接点を近づける。さらに、ピザづくりや豆腐づくり、味噌づくり等にも取り組み、食文化の国際交流も行います。



4. 成果と課題

(1)成果

①動物園学習

小学校の6年間でほぼ全ての動物と関わることにより、飼育員の方々の日常業務を知るだけでなく、その苦労や仕事における工夫などについても体験を通じて深く知ることができるようになります。そして、単なる一般来場客としての見方とは違う観点で動物たちへの思いをもつようになり、命あるものへの畏敬の念や命の大切さに気付くことができるようになってきています。

②栽培学習

栽培した小麦を脱穀、製粉しての「ピザづくり」、大豆を使用しての「豆腐」や「味噌」づくりを通して、自分たちの食文化や自給率や輸入量など、物事を広く捕らえるきっかけを作ることができました。また、肥料の有無から生育状況を調べることで、これまで以上に環境に配慮し、気候の変化や土壌の様子などにも考えて作業や学習を進めることができました。

(2)課題

①動物園学習

特に課題として挙げられるものはありません。

②栽培学習

小中併置校の利点を活かし、ESD や SDGS の視点を中核に据えた9年間の教育課程を構築していきます。各教科で自分たちが取り組める視点をどの程度もてるか、それらをつなぎ合わせることができるかが今後のポイントになります。